

春を探る（戴益）

尽日 春を 尋ねて 春を 見ず

杖藜 踏破す 幾重の 雲

帰来 試みに 梅梢を 把つて 看れば

春は 枝頭に 在つて 己に 十分

盡日尋春不見春 杖藜踏破幾重雲
帰来試把梅梢看 春在枝頭已十分

解説 春の訪れた喜びを、梅の花に寄せて詠じた詩。

語釈 ※尽日＝一日中。※杖藜＝藜杖のこと。あかざの茎で作った老人用の杖。※踏破＝歩きぬくこと。※帰来＝帰つて来ると。帰ってから。※梅梢＝梅の花が咲いている木の枝。

通釈 一日中、春はどこかと尋ね歩いたが、春景色にはあわなかつた。あかざの杖について幾重にも重なる雲を見ながら歩きつくした。帰ってから、ちよつと庭の梅梢を折つて見ると、春の気配はこずえの先にふくらんでおり、もう十分に感じとることができた。